

若桜町がんばるプラン（案）

R4. 2. 23

過疎化・少子高齢化が一段と進む若桜町の現状を踏まえて、今後人口が減っても、町民の皆さんの絆をより強固なものとし、町外からも多くの人を訪れ、交流し、移住し、応援していただく環境づくりを行うことで、町民がいつまでも楽しく幸せに暮らせる、そんなまちづくりにチャレンジします。

施策の推進に当たっては、SDGsの17の目標を骨格に据えて、環境、社会、経済の3つのありようをバランスよく施策に反映して、持続可能な若桜町の礎を築いていきます。

1 地域コミュニティの再生

コロナ禍で人と人との出会いやつながりの機会が少なくなり、地域の活力が低下していることから、集落や自治会の活動を促進し、地域コミュニティの絆の再生強化に取り組みます。また、特に池田地域では、担い手不足から集落機能の維持が困難となりつつあることから、集落機能の強化に取り組みます。

【主な取組】

- 行事に参加してポイントゲット!!地域で使える地域通貨の導入検討
- 人と人との集いをサポート。小地域サロンの取組支援
- 高齢者食堂の取組を促進し、お年寄りの孤食を減らす
- 池田地域で新たな集落支援組織の設置を検討し、集落機能を強化
- 集落など地域で取り組む里山ビジネスを支援

2 地域経済の循環への取組強化

地域の産品を地域で消費する「地産地消」はもとより、地域に必要なものをなるべく地域で調達できるよう、「地消地産」の発想で地域からのお金の流出を減らして地域内の経済循環を強固なものとし、雇用創出や所得確保につなげます。

【主な取組】

- 学校給食の食材や道の駅の農産物の地元調達率の向上を目指す
- 町内の各種食事提供施設や配食サービスにおける食材の地元調達率の向上
- 地元にはない業種の起業促進（ジビエ料理、蕎麦屋、パン屋など）
- 特産品の販売促進と新たな特産品づくり
- 町内事業所の事業承継の促進

3 脱炭素・再生可能エネルギーの地産地消

エネルギーの多くを海外から輸入する化石燃料に依存している状況で、電気、ガス、ガソリン、灯油などのエネルギー料金はほとんど町外（国外）に流出していることから、木質バイオマスや水力など地域に豊富にある資源を活用して、エネルギーの地産地消を進めます。

【主な取組】

- 公共施設への木質バイオマスボイラーの設置促進、Jクレジットの活用
- 小水力発電等再生可能エネルギーを導入する集落等の取組を支援
- 再生可能エネルギーの住宅への普及促進（太陽光、バイオマスなど）

4 基幹産業である農林業の振興

集落営農など農業の担い手を確保し、耕作放棄地の拡大に歯止めをかけるとともに、生産力の向上、農畜産物の高付加価値化、特産品化を進めます。また、戦後の植林から伐期を迎える木材の搬出環境を整備して生産拡大を進め、再生林を促進して持続可能な林業を目指します。

【主な取組】

- 集落営農や農事組合法人など農業の担い手の確保
- 農畜産物の高付加価値化・ブランド化
- 鳥獣被害対策、ジビエの活用
- 林道及び作業道の整備、高性能林業機械整備による施業の集約化、人材の育成確保等による搬出環境の整備
- 森林境界の明確化及び伐採収入の確保による山林所有者の経営意欲の向上
- 再生林の支援による持続可能な森林経営の促進
- 町内製材工場による木材製品の高付加価値化、産直体制の確立、販路拡大による流通体制の構築

5 高齢者が暮らしやすく若者が根付く持続可能なまちづくり

高齢者や若者、女性などすべての町民が暮らしやすい環境づくりや防災環境を整え、人材の育成とともに、将来、子どもたちが志を果たしに地元に戻って来るよう、ふるさと教育を進め、持続可能なまちづくりを進めます。

【主な取組】

- 買い物や通院など高齢者の日常生活をきめ細かくサポート
- 若桜宿内に公共施設、買い物、飲食、通院、憩い等の諸機能を集約・維持（コンパクトタウン化）
- 利用者の目線により利便性の高く持続可能性な地域公共交通体系の構築
- 地区内の独居高齢者が集まって暮らす高齢者版シェアハウスの設置を検討
- 野菜集荷等の仕組みづくり、軽トラ市の取組支援など高齢者の生きがいサポート

- 山里暮らしの伝統的な知恵や技術の伝承の場づくり
- デジタル化・society5.0 社会に対応した住民の利便性の向上
- 町内に県産材を活用したとっとり健康省エネ住宅を新築・改修する場合に助成
- 危険空き家の除去や空き家の利活用の対策強化
- 豪雪による孤立集落の防止ときめ細やかな生活道路の除雪対策
- 豪雨等の災害時の避難のあり方を町民へ周知徹底
- 避難所の安全性の確保と避難生活の快適性の向上
- ふるさとへの愛着を育むふるさと教育と主権者教育の推進、無料公設塾の開設
- 若者の人材育成及び退職世代を地域づくりやボランティア活動にいざなう仕組みづくり

6 困難を抱える方々に寄り添う地域福祉

介護、障害、困窮など困難を抱える方々を一体的に支える体制をつくり、地域の絆でセーフティーネットを構築します。

【主な取組】

- 困難を抱える方々に寄り添う一元的な相談支援体制を町社会福祉協議会と連携して構築
- 地域福祉を担うボランティア活動の促進と福祉団体、各種団体との連携による支援体制づくり
- コロナ禍による困窮、子どもの貧困、ひきこもり、ダブルケア、虐待、ヤングケアラーなどの諸課題への積極的な取組

7 アフターコロナの観光交流・移住促進

コロナ禍で密を避ける人々の価値観の変化をとらえ、氷ノ山エリア、城下町の町並みや若桜鉄道などを活かした観光交流を進めるとともに、空き家や遊休施設を活用してワーケーション等の関係人口の拡大や移住の促進に取り組み、町ににぎやかさを取り戻します。

【主な取組】

- 氷ノ山を全シーズン型観光の拠点に
- 若桜宿の伝統的建造物群指定を活かし、若桜鉄道、若桜城址と合わせて観光振興と経済効果の創出
- コロナ後のインバウンド需要に対応し外国人観光客向けのプログラムの醸成（自然体験、農林業体験、ものづくり、民泊など）
- 空き家や遊休公共施設を活用したワーケーションの促進、サテライトオフィスの誘致
- 支援パッケージ（奨学金の返還支援、一時金、住居支援等）によりUターンを強力に促進

- 町出身者等のまちづくり応援団を組織化、空き家管理、墓守などのニーズとのマッチング
- 特定地域づくり事業協同組合と連携し、雇用の場を確保
- 特定業種の起業を条件とした逆指名の移住（人材誘致）を検討
- 空き家の利活用（早い段階での所有者からの相談促進、奥地集落へも誘導）

8 官民による協働・連携

まちづくりに向けて住民、民間団体や町内企業との協働・連携を進めるとともに、町職員が一丸となって力を発揮できる環境をつくります。

【主な取組】

- まちづくりや地域課題の解決に住民や民間団体の力を結集
- 若者会議や女性会議を設置し意見を施策に反映
- 毎年テーマを決めて民間を交えた各課横断的なプロジェクトチームを設置し、施策を検討
- 情報発信の充実